

- ◆企画名 ピアみら（ピア・コミュニティの未来を考える）  
 日程 2023年9月12日（火）10：30～15：30  
 場所 千里山キャンパス第3学舎第2会議室（A302）  
 参加者数 33名（ピア・サポーター11名、研修生11名、シニア・サポーター1名、  
 TA3名、教職員7名）

### 目的

レクリエーションを通して、他コミュニティについて理解を深め、コミュニティ間の交流を図ること。また、ピア・コミュニティ設立当初より活動に携わっていた職員の講義を受け、ピア・コミュニティについて自分自身の考えを改めて整理したうえで、グループディスカッションを通して他学生の意見を取り入れることで理解を促進するとともに、秋学期以降のメンバー募集に活かせる経験を積むことを目的とする。

### 内容

- ・開会式（10：30～10：45）
- ・各コミュニティレクリエーション（10：45～11：45）
  - KUSP：夏休みの思い出トーク
  - KUブリッジ：やり取りを成立させないゲーム
  - KUコアラ：本のあらすじ・書き出し当てクイズ
- ・自分の考えのアウトプット（11：50～12：00）
- ・日本ピア・サポート学会事務局長による講義（12：50～13：20）
- ・グループディスカッション（13：20～15：10）
  - テーマ：ピアを新入生にどのように説明するか？
- ・閉会式（15：10～15：30）

### 効果

- ・他コミュニティと意見交換ができ、グループディスカッションの練習にもなった。
- ・各コミュニティについて、それぞれの広報や勧誘の現状などを共有でき、自身のコミュニティの今後の活動の参考になった。
- ・他コミュニティとの交流だけでなく、ピア・コミュニティの活動の振り返りや存在意義について学び、知識を得ることができた。
- ・ピア・コミュニティのOBの方を招くという新たな企画に挑戦したことで、現在のピア・コミュニティとの違いを理解し、今後の活動へのヒントを得ることができた。
- ・講義では、事前に質問を伝えておいたことで、スムーズに進行できたとともに、率直な質問にも答えていただけたことで、ピア・サポート活動に対して感じていた堅いイメージを払拭できた。
- ・所属しているピア・コミュニティの歴史を知ることができ、今後の活動の方針について考えることができた。
- ・ピア・サポートへの漠然としたイメージが具体的になった。

### 改善点

- ◆準備
- ・イベントの大枠決めが遅かった。
    - 目的や流れ、構成などは、早めの段階でしっかりと固めておく。
  - ・資料作成に手を付けるタイミングが遅くなってしまい、完成がイベント実施の直前になってしまった。
    - 資料作成の役割分担を前もって決定しておく。
    - いつまでに何の資料を作成しておくかなど、スケジュールを明確にする。
  - ・当日スライドが必要なコミュニティを把握していなかった。
    - 代表者会議やLINE等を通じて、事前にスライドの必要性の有無を確認しておく。
- ◆当日
- ①レクリエーション
    - ・他のコミュニティにお願いする際、代表者への負担が大きくなってしまった。
      - 今後はコミュニティの進行状況や分担を確認するなど、踏み込んでお願いする。
  - ②グループディスカッション
    - ・参加者から意見が出しにくかったという感想があった。
      - 運営本部のメンバーがファシリテーターとして意見を出しやすいように話を回す。

- ・グループディスカッションの流れをもっと具体的に指示しておくべきだった。  
→事前に運営本部でしっかりと打ち合わせをし、流れを可視化しておく。

### ③講義

- ・講師への質問がなかった。  
→質問が出なかった場合のために、事前に運営本部で質問を用意しておく。

### ④全体

- ・各グループの席の配置の中で、一部スクリーンが見づらい席があることを考慮していなかった。
- ・司会の方の座席を準備するかどうか決めていなかった。  
→リハーサル段階で確認する項目を事前に決めておく。  
特に、座席については、配置及び見やすさを念入りに確認する。
- ・昼食の過ごし方を自由にしてしまったせいで、グループで食事する人と1人で食事する人で分かれてしまった。  
→事前に、昼食を持参するかどうかのアンケートを取り、その結果次第でお昼休みの過ごし方についてこちらで考えておく。

## 感想

スケジュール通りにイベントを進めることができ、予定していた内容を全て実施できたため、内容の濃い時間を提供することができた。参加者の感想でも、学びを得られた等のプラスの感想が多く、事前に設定した目的は達成できたと考え、イベントとしては大成功であったといえる。また、運営本部としては、これまでのイベントでは、司会での原稿の読み方が課題としてあげられることが多かったが、本イベントでは司会が周りを見ながら臨機応変に話を展開させ、場を盛り上げていくことができた。イベント全体としてもOBの方を招き、講義を行っていただくような新しい企画を盛り込んだことや、各コミュニティにも企画から携わってもらい、それぞれの持ち味を活かしたレクリエーションを行うなど、イベントの内容について目的を持ってしっかり準備できたこともあり、手応えを感じることもできた。

その一方で、パワーポイントなどの資料準備や席の確認などの会場下見がギリギリになり、リハーサルが満足にできなかったことや、イベントの大枠決めまでに時間がかかりすぎた等の反省もあった。今後のイベントではその反省を活かし、より良い企画・運営を行っていきたい。

